

# 文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽  
応援団通信

第21号

2012. 7. 21.



そねざきしんじゅう  
『曾根崎心中』

文楽応援団ホームページ

<http://bunrakuouendan.web.fc2.com/index.html>

文楽応援団ツイッター

<http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>



HP携帯QRコードは  
こちら

## 文楽応援団の自己紹介

Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

### おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・チラシを配布
  - ②文楽関係の展示品の解説
  - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
  - ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です
- この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います

〒542-0073 大阪府中央区日本橋1-12-10

**国立文楽劇場** 事業推進課 文楽応援団担当

TEL 06(6212)2531(代) FAX 06(6212)1202

## 『先輩の思い出』

国立文楽劇場営業課長

小野澤 隆宏

「おーい、営業課長。明日は○△協会行くぞー」大阪の親父が叫んでる。「はーい、お供します」。

「おーい、営業課長。明後日は○△寺行くぞー」。「はーい、よろしくお願ひします」。

「おーい、昼飯は、黒門の○△屋で○×定食食うぞー」。「はーい、お供します」。

平成二十三年四月に文楽劇場赴任以来、こんな風に「おんぶにだっこ」で過ごしてきた。

ふと気が付くとその親父の姿が見えない。どこに行ったのか？机の下を探すもない。そう、大阪の親父こと、A支配人はこの三月末で定年退職されたのです。

Aさんと私は、平成九年の前文楽劇場赴任時にも、ご一緒させていただいた大先輩である。その時は、私が初めての総務畑の仕事ということもあり、事務の「いろは」を教えていただいたのを鮮明に覚えています。

振興会（国立劇場）創立時（昭和四十一年）から在籍していた職員の中には、個性豊かで豪快な先輩方が多く在籍していました。

入社当時、まだ二十代の若造だった

私は、先輩方と、昼夜を問わず行動を共にし、良い事・悪い事たくさん教えていただきました。

そんな憧れの先輩の一人であり、親父がわりでもあるAさんの退職は、惜別の念を禁じえませんでした。

Aさんからの今回の赴任時の教えが、「公演前に緊張感を持つてお客様を迎える準備をする」ことでした。

劇場の一階正面入り口はもちろんのこと、ロビーや展示室も点検しなさい。

そして、展示室で準備をしている文楽応援団の皆さんに感謝しなさい。でした。平成十三年よりずっと

ボランティアとして文楽の普及・振興に努めていたという皆さんに感謝することは、言われるまでもない事ですが、そうした「基本的なこと

を着実にを行う」ことが大事なんだと言うAさんの「教え」肝に銘じ、実践していきたいと思えます。これからもお力添えをどうぞよろしく

お願いいたします。



いせおんどこいのねたば  
『伊勢音頭恋寝寝』

## やっぱり文楽はやめられない！

其の十六

### 『文楽と私』

川端 保雄

音感には弱い私、ところが初めて観た文楽で大夫さんの語りの抑揚とテンポ、三味線の小気味よいリズムの虜とらになってしまいました。帰りの御堂筋はそのリズムとテンポで歩いていかもしれません。どうして文楽の音曲にはいとも簡単にはまり込んでしまったのか、いまだに腑に落ちない世界です。

文楽を初めて観たのは四十代の後半、日本経済はバブルで沸き立っていた頃です。そんな折に仕事とは違う視点で大阪を見てみようという仲間二人が近くにいて、「それなら大阪の古典芸能だ」と時間のやり繰りをしては能・歌舞伎・そして文楽と劇場に足を運びました。いつの間にか転勤などでこの三人がばらばらになつてしまったとき、私に残ったのは能でも歌舞伎でもなく、初めての印象が強烈だった文楽であったというわけです。それも耳に入ってくる語りと三味線の音色にほれ込んだだけで、義太夫節を習ってみようかという気もさらさらなく、三味線の技巧的なことも何も解らず、ただただ耳に入ってくるテンポとリズムに、公

演ごとと呼び寄せられるようにして三十年近いお付き合いが続いたという事です。

展示室で文楽応援団の名札をつけていると、「文楽は初めてですが、何から勉強したらいいですか」と学生さん。

「えッ！勉強？時代は違いますが文楽は庶民のエンターテイメントですよ。まずはリズムとテンポを我がものにしてください。今はやりのライブなら、あなたは席から立ち上がった身体でリズムをとりながら、その世界に入り込んでいらつしやるでしょう、それが一番なんです。今日もそのノリで行きましょう」と私。

時には言うべき相手を間違えて響ひびをしゅく買うことありますが…。それでも、「やっぱり文楽はやめられない！」



せつしゅうがっぼうがっじ  
『摂州合邦辻』

## 最近の活動風景

京都ゆがりの地巡り  
2012.3.11



金閣寺にて



六角堂



お半・長右衛門供養塔



相生座にて 2012.6.3



ルネッサなごと  
2012.7.8



伊勢市古市散策  
2012.7.15

## 解説風景



ワシントン大学の学生さんたち 2012.6.24

文楽応援団

東西ど一ざり

## 街角で見かけた文楽人形



新大阪駅で



大阪市営地下鉄駅で



文楽劇場前に復活された  
『二ツ井戸』



4月公演展示室入口

## BUNRAKU CRITTERS

There are not many animals in bunraku. The occasional bird may flit by, or a barking dog accost the hero on a nighttime street. Even the horse is uncommon, although he often appears in kabuki, played by two men in a horse suit. Flying creatures and little ones like mice are manipulated by the puppeteer on the end of a long flexible rod. More substantial animals, such as dogs and foxes, are constructed like a double-ended hand-puppet, with the puppeteer working the head with one hand and the hindquarters with the other.

The monkey king Songoku in "Saiyuki" is a very rare creature indeed. He first appeared in bunraku in Osaka in 1816, where his antics comprised spectacular stagecraft, quick-changes and aerial stunts. He continued to perform until the end of the century, but then fell from the repertoire and did not reappear until he was revived by the National Theatre in Tokyo in 1981. Surprisingly, the original 1816 puppet head still existed, along with a few others from the 19th century. But they were primitive and small, unsuited to a big modern stage, so a new head was specially created which is still in use today. Two heads, actually, since the Boiling Pot scene contains a quick-change which employs a double.

Puppet bodies are not preserved but are rebuilt by the lead puppeteers for each production; the torso is a hollow frame onto which stock limbs are strung. But puppet heads are treasures carved by masters, carefully designed to enable all the facial expressions the character will need to be unleashed by the subtlest flick of the puppeteer's wrist. The Songoku head is extra large, to make space for a face surrounded in fur. To further aid visibility, and add some otherworldly bling, both teeth and eyeballs are gold. As authentic as he looks, however, his fur is not monkey fur, but came from a wild red fox.

Faith Bach  
Earphone Guide

*Next bunraku productions:*  
*September 8–24 (Tokyo)*  
*November 3–25 (Osaka)*



Saiyuki  
『西遊記』

- |      |  |      |  |
|------|--|------|--|
| 1/ 3 | 新春公演初日。鏡開き。展示室解説、演目解説など、24日まで。<br>応援団通信20号3,000部発行。                                      | 5/19 | スタッフ会議。出席:10名。   |
| 1/28 | スタッフ会議。出席:8名。  | 5/21 | 第1回応援団通信編集会議。出席:3名。                                      |
| 2/18 | 第1回研修会。出席:37名。新春公演総括。新団員紹介。<br>学習会「パロディーとしての時代物『平家物語と文楽』」講師:山本。                          | 5/26 | 第3回研修会。出席:29名。<br>4月公演総括。学習会「三題噺(油屋、大和川付替、北前船)講師:小倉。     |
| 2/19 | 京都演目ゆかりの地巡りの下見。世話人:榊田、柴多、安藤。   | 5/29 | 毎日新聞東京本社夕刊編集部より電話取材。(6月1日夕刊に掲載)                          |
| 2/24 | 第1回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。   | 6/ 6 | 第3回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。<br>第2回応援団通信編集会議。出席:3名。        |
| 3/ 1 | 上方芸能184号(5月中旬発行)に文楽応援団のひと言メッセージを寄稿。  | 6/23 | 第3回応援団通信編集会議。出席:2名。                                      |
| 3/10 | スタッフ会議。出席:10名。   | 6/24 | ワシントン大学美術史学部16名と引率2名より解説依頼。<br>担当:馬越、大野、長、川崎、北、榊田、松井、安藤。 |
| 3/11 | 京都演目ゆかりの地町歩き。参加:8名。<br>誓願寺、虎石町、六角堂、桂川、金閣寺など。   | 6/30 | スタッフ会議。出席:9名。<br>第4回応援団通信編集会議。出席:2名。                     |
| 3/17 | 第2回研修会。出席:36名。4月公演演目説明、見所解説。担当:藤田。<br>解説日程調整など。学習会「文楽基礎解説のDVD鑑賞」<br>「劇場前の二つの石碑」の掃除は雨天中止。 | 7/13 | 応援団HP編集会議。出席:3名。   |
| 3/19 | 社会福祉協議会へ、ボランティア保険加入手続き、55名分申請。   | 7/14 | 第4回研修会。<br>夏休み公演日程調整、演目説明など。                             |
| 3/22 | 応援団HP編集会議。出席:4名。   |      | 学習会「摂州合邦辻に因んで」講師:榊田。                                     |
| 3/27 | 第2回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。   | 7/15 | 夏休み公演ゆかりの地伊勢市古市へ。  |
| 4/ 6 | 応援団活動写真パネル作成。担当:荒木、安藤。<br>応援団HP編集会議。出席:4名。   | 7/20 | 応援団活動写真パネル作成。担当:荒木、安藤。<br>第4回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。     |
| 4/ 7 | 4月公演初日。応援団登録証伝達式。櫻井支配人より授与される。<br>出席:46名。<br>展示室解説、演目説明など30日まで。                          | 7/21 | 夏休み公演初日。展示室解説、演目解説など、8月7日まで<br>応援団通信21号3,000部発行予定。       |

## 文楽公演

平成24年10月

## 地方公演スケジュール

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

### ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」かつらがわれんりのしがらみ『桂川連理柵』「六角堂の段」「帯屋の段」「道行朧の桂川」  
【夜の部】「解説」ににかむろ『二人禿』よしつねせんぼんざくら『義経千本桜』「すしやの段」

#### 地方公演チケットお問い合わせ先

9月29日(土)	河内長野市立文化会館ラプリーホール	0721-56-6100	10月13日(土)	府中の森芸術劇場(ふるさとホール)	042-333-9999
10月 4日(木)	名古屋市芸術創造センター	052-249-9387	14日(日)	(静岡市)グランシップ(中ホール・大地)	054-289-9000
5日(金)	名古屋市芸術創造センター	052-249-9387	17日(水)	(仙台市)電力ホール	022-227-2715
6日(土)	岡崎市せきれいホール	0564-25-0511	19日(金)	千葉市文化センター(アートホール)	043-247-8430
7日(日)	神奈川県立青少年センター	045-662-8866	20日(土)	(相模原市)杜のホールはしもと	042-742-9999
9日(火)	枚方市市民会館	072-843-1122	21日(日)	立川市市民会館(アミューたちかわ)	042-526-1311

文楽応援団通信 第21号 2012年7月21日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-2531 FAX06-6212-1202